

## 6月18日(日) 第二礼拝 「最後まで主に頼れ」Ⅱ歴代誌16章7-9節

信仰生活の中で、私たちは神様の祝福を受けています。その中で、信仰を捨てる人もいますし、最後まで信仰を持ち続ける人もいます。今回は、アサ王とダビデ王を見てみましょう。

南ユダの王アサは、宗教改革を行い、偶像を徹底的に打ち壊し、異教の祭壇と高き所を取り除いて、主に頼った王様でした。エチオピア(クシュ人)とリビア(ルブ人)の連合軍100万人がやって来た時、アサは主に全幅の信頼を置いたので、神様は彼に大きな勝利を与えてくださいました。これは靈的戦いの勝利の秘訣です。全能の神様が、私たちと戦おうとする敵、サタンと戦ってくださるのです。「彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。(イザヤ53:5)」これが主の戦いと勝利の方法です。私たちが大きな問題や病気と闘う時、主が勝利してくださるのです。重要なことは、勝利の後でも、私たちがいつも主と共に歩むこと、そして、主に頼り、主を信じ続けることです。アサの治世の最初の35年は、主と共に歩み、戦争は起こりませんでした。

しかし、その後アサは失敗してしまいます。北イスラエルの民がユダに上って行くのを見たイスラエルの王バシャが、ラマの町に城壁を築いた時、アサは主の宮と王宮の宝物倉の銀と金を取り出し、アラムの王ベン・ハダデに賄賂を贈りました。アサは神様に頼らず、外交手段での解決を考えたのでした。そのため、本文7-9節、彼のこの愚かな選択により、数々の戦いに巻き込まれていくことが、予見者によって語られます。

これに対し、ダビデは、詩篇71:5-6 子どもの頃から死ぬまで絶えず神様の恵みを思い起こし、神様をほめたたえ、神様と心をつにしていました。彼は御言葉を読み、主に祈り、賛美を捧げ、主に栄光を返す生活をしていました。そのため、ダビデには、主の臨在(インマヌエル)が常にあり、彼は勝利から勝利へ導かれていきました。彼の人生は波乱万丈で、罪も犯しましたが、いつも主が彼の代わりに戦ってくださいました。詩篇21:7 ダビデは王になっても、神様に信頼し、いつも神様の御心を聞く姿勢をもっていました。戦いの時には、上るべきかを神様に聞き、「上れ」と言われたら、それに従いました。Ⅰ歴代誌28:9 ダビデの最後の遺言では、ソロモンに自分の信仰を遺産として残しました。ダビデは、若い時から死ぬまで信仰を貫き、ソロモンがその信仰の遺産をもって、最後まで神様を信じ続け戦っていくように遺言を残したのです。

現在、この世の価値観が大きく変わっていく時代です。6月に入り、LGBT理解増進法案が成立しましたが、今後、学校教育にも影響が出てくるでしょう。このような時代の中で、私たちは、子ども達が最後まで信仰を守り続け、勝利するように祈っていくことが重要です。エレミヤ17:7-8「主に信頼し、主を頼みとする者に祝福があるように。その人は、水のほとりに植わった木のように、流れのほとりに根を伸ばし、暑さが来ても暑さを知らず、葉は茂って、日照りの時にも心配なく、いつまでも実をみのらせる。」 アーメン！